

令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

静岡県立掛川特別支援学校

1 日 時 令和5年10月18日（水） 午後1時30分から3時30分まで

2 会 場 静岡県立掛川特別支援学校 会議室

3 参加者

○委員

- ・会 長 鴻野 元希 様
- ・副会長 杉山 弘 様
- ・コーディネーター 田辺 エミ 様
- ・委 員 馨 敏郎 様
- ・委 員 大石 徹 様
- ・委 員 中山 善文 様
- ・委 員 藤田 節子 様
- *欠席 ・委 員 山元 薫 様

○学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
肢体不自由教育主任、CSディレクター
教務情報課長 生徒指導課長 防災教育課長 保健給食課長 研修課長
自立活動課長 体育課長 図書表現課長 地域連携課長 キャリア教育課長

4 内容

(1) 開会

- ① 校長あいさつ
- ② PTA 会長紹介

(2) 議事

① 学校経営について

- ア 令和5年度分掌経営計画中間評価報告
- イ 第1回学校運営協議会の提言についての取組状況
- ウ 質疑応答

② 意見交換

～学校周辺地域のひと・もの・ことを生かした学習～を推進していくために

- ア 「ふれ活」シンボルマークの作成・活用について
- イ グループワーク

③ 学校関係者評価について

- ア 今後の進め方について

(3) 連絡事項

令和5年度ふれあいフェスタについて

(4) 閉会

5 議事録

(1) 校長挨拶

本校は、教育目標を3つに分類し、それを支えている10の分掌課の課長が出席し、一学期間の取組について報告します。また、コミュニティスクールについても、コーディネーターが頑張っており取り組んでいます。共生共育が進む中、地域との取り組みを加速させていきたいと考えています。予測不可能なことがたくさんある中、地域ぐるみで乗り切りたいので、一緒に盛り上げ、地域、保護者、学校が一体となって、子どもたちを育てていきましょう。本日は、忌憚のないたくさんの御意見をいただき、今後の学校運営をさらに充実させていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(2) P T A会長自己紹介

このような場は不慣れなため、至らぬことが多いと思いますが、よろしくお願いいたします。

(3) 学校経営について

ア 分掌からの中間報告
司会（副校長）

「分掌からの中間報告について、委員の皆様より御意見等をお願いします。」

鴻野委員

教務情報課の個別の指導計画等の文書処理に、生成AIを活用する予定はあるか。

・教務情報課長

県からChat-GPTを使うための研修動画が配信されており、分掌課員は研修が済んでいる。県のガイドラインを参考に、校内ガイドラインは作成したが、ルール作りができていないため、周知はしていない。

・副校長

今のところ、個人ではアクセスできていないので、校内でのガイドラインやルール作りを進めていく。

・鴻野委員

生成AIが作成する文章では、味気ないものになりそうで、業務削減とのバランスが難しいのではないかと思う。

副校長

生成AIを活用している例がありましたら、教えていただきたい。

・大石委員

工場の検査工程でAIを活用している。外部（大学等）と協力して研究しながら進めている。

・中山委員

掛川市の職員は、Chat-GPTを使っている。試行期間が終了し、メールの返信文書や簡単な文章作成等に利用している。ただし、議会の答弁等には使えない。AIからの返事の全てが正しいわけではないので、ルール化や確認が大事。試しに「掛川市長は誰？」と尋ねたところ、事実とは全く異なる答えが返ってきた。

鴻野委員

防災教育課の福祉避難所について、どの程度の災害を想定して、備蓄をしているのか。

掛川市または静岡県内の行政と寝具などの話合いができていますか。

・防災教育課長

福祉避難所は、掛川市からの要請を受けて開設する。市の防災倉庫が敷地内にあり、訓練でも倉庫内の機材を使用した。避難受け入れ対象は、本校児童生徒と卒業生の家族となっている。

- ・ 鴻野委員

避難者の人数や開設期間の想定があるか。

- ・ 防災教育課長

防災倉庫にあるもので、対応するが、足りないときは市へ要請すれば、応じてもらえることになっている。

大石委員

生徒指導課で設置したスクールバスの安全装置について、設置後に危険なことがあったか。また、そのときどんな対応をしたか。

- ・ 生徒指導課長

今のところ危ないことは起きていない。置き去り防止装置は、アラームを消すために、バスの後部座席から順に確認する流れになっている。

杉山委員

R4年度に掛川市長副市長を交えて、通学路の安全について話す機会があった。その際、言葉での説明だけでなく、写真の提示があつて分かりやすかった。ただ、コンピュータを利用すると分かりやすく便利ではあるが、準備が大変な部分もあると思われる。ICTを活用するための研修等は実施しているか。

- ・ 研修課長

授業づくりについては、研修課を中心に、ICT機器の活用については、教務情報課を中心に職員向けの研修を実施している。

鴻野委員

特別支援学校にとって、自立活動とキャリア教育は密接な関係とを感じる。卒業後に必要なこととして、社会性や公共性を身に付けることが大切だと思う。個々の涉外特性が妨げになることがあるのか、また、どのような関連性があるのか知りたい。

- ・ キャリア教育課長

キャリアプランマトリックスに含めている。卒業後の離職率は低くはない。その理由として、自分の希望と異なる事業所の場合が考えられる。生徒の内面の育ちを大切にできるような視点を教師がもてるように、キャリアプランマトリックスを活用していきたい。

- ・ 自立活動課長

自立活動は、6区分27項目をとおして、児童生徒の全体像を捉えている。児童生徒一人一人の課題に対して、どのような力を付けることが大切か、個に応じた具体的な目標にして示されるように、キャリア教育課と連携していきたい。

- ・ 副校長

自立活動の27項目とキャリアプランマトリックスについては、次回の学校運営協議会で示す。

馨委員

先日、地域のこども園に伺った。20代の若い先生が多く、スマートフォンでお便りを配信することが多い。ただ、読む側の保護者は、小さな画面で読むため、A4サイズではなく、A5サイズのお便りにする配慮をしている。保護者と職員との距離の近さを感じた。中間報告やそれについての質疑応答は大切だが、事務的なことだけでなく、保護者の立場での気持ちも聞きたい。

- ・ 藤田委員

保護者として、怒涛の日々を過ごしているので、先生たち側の様子を見る余裕がなかった。中間報告を聞いて、ただただ、すごいと感じた。保護者は、自分の子をなんとかして社会に出そうと日々頑張っている。先生方が同じ思いでいてくれることが分かり、感動している。この感動を他の保護者にも伝えていきたい。

- ・ 副校長

PTAは保護者と教員の組織なので、私たちからも発信する必要があると感じる。

イ 学部からの中間報告

司会（副校長）

「各学部の取り組み（特に働き方改革）について、委員の皆様より御意見等をお願いします。」

・鴻野委員

どの学部もすばらしい取り組みだと感じたとともに、少し安心した。時間の把握をし、負担軽減することで、研修が深まると期待する。放課後等デイサービスを利用している児童生徒が多いと思う。学校で培ったものを放課後等デイサービスでも連携していけるのではないかと感じる。また、毎日利用している児童生徒もいるようだが、子どもたちにとっては、どうなのか。空いた時間を有効に使ってほしい。

・田辺委員

地域の病院である中東遠医療センターにゆうあいの里から3人の医師が来てくれている状況。医師不足など、掛川市の医療に不安があるが、保護者からそのような声は上がっていないか。

・肢体主任

重心部会では、話題になっていない。

・地域連携課長

中東遠総合医療センターの主治医やこひつじ診療所の医師の入れ替わりがあり、不安だという声は、特別支援学校等連絡協議会では話題になっているため、保護者の不安に寄り添いながら、働き掛けていこうという話もしている。

放課後等デイサービスとの連携については、本校児童生徒の90%が28事業所を利用しており、校内の窓口を一つにして対応している。児童生徒への対応について、必要があれば関係者会議の開催、学校見学等、本人が正しい行動ができるように支援するための要望は、常に受け付けている。また、そこで共有した内容は、生活支援センターや校内支援検討委員会などで、内部外部ともに共有するようにしている。

司会（副校長）

「各学部の取り組み（特に働き方改革）について、御意見、御質問等をありがとうございました。このあとの意見交換は、コミュニティスクールのコーディネーターとディレクターをお願いします。」

(5) 意見交換 進行：田辺コーディネーター、大塚CSD

「地域とともに歩む学校」を目指して

令和5年度のふれあい活動（ふれ活）

～学校周辺地域のひと・もの・こと を生かした学習～を推進していくために

・大塚CSD

コミュニティスクールの活動に御協力いただき、ありがとうございます。活動の名前が「ふれ活」になり、今年度は、シンボルマークを作っていこうと、田辺様と生徒会の生徒たちと一緒にデザインを考えています。

・田辺委員

高等部の生徒会に所属する生徒たちが、真剣に、楽しく仲良く、そして輝きながら話し合いに参加してくれました。掛川らしさ、掛川特別支援学校らしさということで、生徒から「ききょう、虹、桜、鳥、フェスタ」などが出てきました。生徒たちと一緒にシンボルキャラクターをデザインしています。今後キャラクターができれば、どのように活用したらいいか、どんな製品化ができるか、それぞれのお立場からできそう

なことを考えていただきたいです。

- ・大塚 CSD：今から2グループに分かれて協議をしていただき、お互いの意見を共有できるように、最後に発表をしていただきたいと思います。それでは、よろしくお願い致します。

グループ協議

シンボルマークやキャラクターに込められた思いを大切にしてほしいという御意見や、さまざまな活用方法のアイデアが出ました。キャラクターグッズ（Tシャツ、缶バッチ、クリアファイルなど）、SNSでの発信のトップにする、スクールバスや公用車にステッカーを貼ってアピール、ふれ活弁当、10周年記念とタイアップするなど、活発な意見交換がなされました。

- ・田辺委員
子どもたちが考えたシンボルやキャラクターの活用方法を、大人たちが真剣に考えて意見交換している姿がとても素晴らしいと思いました。
- ・大塚 CSD
皆様からいただいたご意見を、子どもたちと共有できるところはしていきながら、シンボルマークの完成に向けて進めていきます。本日は、ありがとうございました。

司会（副校長）「第3回では、学校自己評価と保護者評価の結果を御報告します。委員の皆様からも評価をいただき、来年度の学校経営に生かしますので、御意見をいただきたいと思います。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。」